

大正デモクラシーの時代

1. 政党政治の発展

日露戦争後の日本では...

こっちとこっち、
交互に組閣した

(桂園)時代とよばれた

藩閥・軍部に支持された

(桂太郎) 内閣




長州藩 公身

VS

政党を基盤とする

(西園寺公望) 内閣



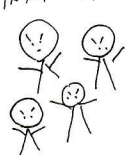
立憲政友会 総裁

1910年、韓国併合があり、


1912年、陸軍が軍隊をもっと(約2万人)増やして朝鮮に馬主留させたいと言ってきた。

反対!!

議会



西園寺 内閣




日露戦争で財力難に苦しんだので、これ以上軍隊の増強なんてできないよ


そして、陸軍によって

→ 西園寺内閣は倒される

陸軍



桂内閣



桂太郎が3度目の内閣を組織しました。

しかし、政党と政党を支持する人々が桂内閣に反対する運動を起しました。

これを、**第一次護憲運動** という。

憲法をまもれー!
(憲政擁護)

議会を無視して陸軍を増強することになったので、桂内閣打倒の民衆運動が起った。

中心人物

立憲政友会... (尾崎行雄)

立憲国民党... (犬養毅)

(民衆が藩閥側の新聞社を襲撃したり、2万人もの人々が国会を包囲した)

50日ほどで

第三次桂内閣が総辞職した。